

## 緊急アピール

# かつてない口蹄疫の発生について

2010年5月15日

スローフードジャパン 東京・神奈川ブロック

今年、4月下旬から宮崎県川南町を中心に発生した牛や豚に感染する伝染病・口蹄疫(こうていえき)は、爆発的な感染力で甚大な被害をもたらしています。口蹄疫は人間には感染しませんが、5月15日現在、80農家(農場)で8万頭を超える牛や豚が殺処分されることになり、日本の畜産史上最大の、かつて経験したことのない深刻な事態が進行中です。

口蹄疫に感染した家畜がいる農家付近では、家畜の移動が制限され、感染していない生産者の家畜も出荷は一切できません。また、畜舎の廃棄物から作られる堆肥の畑への散布も、糞尿の処理も、感染の恐れがあるため一切できません。さらに、新聞・テレビなどのメディアも、取材車や記者への付着物などによる感染の拡大を避けるため、現地には入れません。現地の実情がほとんど伝わらぬまま、畜産農家の孤立状態が既に1カ月近く続いています。

口蹄疫は牛や豚にとって致命的な病気であることと、その爆発的な感染力から、1頭でも感染した農家では、感染拡大防止のためすべての家畜が殺処分され、土に埋められます。しかし、今回はあまりの数の多さに殺処分が進まず、畜舎内で感染が拡大しました。牛や豚を大切に育ててきた人たちの目の前で、その牛や豚が次々と倒れたのです。そして、殺処分してもその数が多すぎるため埋葬場所がなく、石灰をかけて放置する状態になっています。

畜産業は家畜の「命」を扱い、仕事にしています。その命が、人々の命の糧となる食べ物になるからこそ、生産する喜びを感じ、誇りを持ち、そして飼育する動物たちへの感謝の気持ちを抱き、畜産業は営まれています。それなのに、飼育してきた動物たちが目の前で次々と倒れ、手当てもできず、そして生き残ったものもただ殺され、最終的に埋められていくのです。生産者の方々の苦しみや悲しみは、想像を絶します。

かつて、口蹄疫は台湾やイギリスで猛威をふるい、地域の農業や経済を崩壊させたことがありました。しかし、5月15日現在、日本では現地の農家の方々や関係者の必死の努力により、地域外への感染が食い止められています。いま、日本の畜産は、宮崎県川南町や都農町・えびの市などの生産者の方たちの、涙と嘆きによって守られているのです。

私たちスローフード運動に関わる者たちは、料理の味だけではなく「お皿の外」を考えます。お皿の外で、育てた牛や豚を殺処分せざるをえない生産者の方たちの痛みと、病気の感染をこれ以上広げまいとする地元の方々の必死の努力を、心から受け止めたいと思います。輸入食肉の増大、農業の地域内循環の分断などにより畜産農家が減少してゆくなか、私たちは今回の事態をけして見過ごせません。

スローフードは、「おいしい、きれい、ただし」食のあり方を問う運動です。その運動に関わる私たちは、それぞれの立場で、多くのやり方で、今回悲劇に遭われた方たちを支え、一日も早くその方たちが、食を支える喜びを再び取り戻してくださることを願っています。

そして、その地域に再び笑い声が戻ることを……。